



コロナ禍の食品廃棄問題

商・渡辺ゼミ マシンガングズ滝沢さんとトーク

東京都と大学との共同 クライブを開催した。お事業に採択された商学部 笑い芸人でゴミ清掃員で渡辺達朗教授の食とゴミもあるマシンガングズの滝沢さん、ユニティ活性化に関与する研究に「ユニティ」関係者ら約50人が語り合った。

「未開封の米袋が捨てられていたり、クリスマスのは後ほホールケーキが丸ごと捨てられたり、」

「(リデュース・リユース・リサイクル)が必要と言われているが、滝沢さんは四つ目のRとして「リスペクトを加えたい。生産者、流通、ゴミ回収などの関係者、そして食べ物に敬意を払うこと、食品ロスは減らせたい。」「買占め食品がそのうち大量に廃棄されるのではないかと危惧する。」「ゴミ問題解決には3R

オンラインで距離超えて

SNS「となりのしまね」で情報発信

藤田 愛さん (経営2)

「大好きな島根のこと発信の場としてインスタグラムに「となりのしまね」を立ち上げた。SNSを通じて、心理的な距離をゼロにしたい。藤田愛さん(経営2)は島根県に魅了され、SNSで発信を続けている。

生まれも育ちも横浜の藤田さん。昨年度のリーダーシップ開発プログラムで島根県の地域づくり・コミュニティビジネスの企画を担当した。都内での活動とは別に、同県内でのインターンシップや、まちづくりプログラムにも積極的に参加し、「地域への強い思い」を熱く語る社会人や学生に魅了された。情報

「「となりのしまね」の運営に携わっている長友大晟さん(経営2)は「島根初心者」。昨年度、リーダーシップ開発プログラムで島根県に魅了された。SNSで発信を続けている。

対面授業が一部再開



6月29日、資格取得のため実習などが必要な一部の科目で対面授業が再開された。公認心理師受

・実習・演習、教育実習に向けた事前指導、学芸員の資格取得のための館

前後左右を空けて、実習の説明を聞く学生たち。6月30日、生田キャンパス

菊池太賀さん(4年次)は「オンライン授業でやりとりはしていたが、人と会って会話するのは久しぶりだったので新鮮だった」と話した。資格取得に向け、山口美羽さん(4年次)は「初めての状況なので不安はあるが、頑張っていくしかない。直接会うことで先生や友人からさまざまな情報を聞くことができてよかった」と話した。

「島根に多い中小企業に興味を持つようになった」と話す藤田さん。中小企業診断士を目指している

「観光地以外の魅力、住んでいる人の良さをもっと伝えたい。ぜひ」となるのしまねをフォローしてほしい」と笑顔で語る藤田さん。オンラインによって生まれた距離を超えたり、さらに強くしようと奮闘の日々は続く。

育友会 WEB支部懇を開催

毎年夏に教職員が全国各地に赴いて大学の様子をご父母・保護者に説明する育友会支部懇談会は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年オンラインでの開催となりました。

「学業、学生生活、就職」について、育友会ホームページにて7月下旬から動画を配信しますので、どうぞご覧ください。

また、6月から育友会のメールマガジンがスタートしました。大学のさまざまな情報や、育友会からのお知らせをお伝えします。

右記QRコードから空メールを送って登録してください。



WEB支部懇談会やメールマガジンについて、詳しくは育友会HP (http://www.ikuyuu.com/) をご覧ください。

審査結果通知書を持つ宮原さん



資格取得のため養成講習会の受講料などが免

宮原さん(文3) JATI奨学生に 宮原大河さん(文3)が日本トレーニング指導者協会(JATI)の2020年度奨学生に応募し、採択された。 JATIとは、競技力向上や健康づくりなどを

さまざまな現場のトレーニング指導者が相互研さんを通じて専門性を高め、それにより社会への貢献を果たすことを目指す団体。JATI認定資格は一般人からトップアスリートまで、科学的根拠に基づいた適切な運動プログラムの作成と指導ができる専門家であることを証明する資格。奨学生は資格取得のための養成講習会の受講料などが免

宮原さんは高校まで野球をしてきた経験を活かして、将来はジュニア世代のトレーニング指導者を目指している。大学では「身体情報をスポーツ現場で活用する」をテーマとする渡辺英次ゼミに所属し、スポーツを科学的な視点から学んでいる。「運動することの楽しさを伝え、科学的根拠に基づいたトレーニング指導ができるようにしっかりと学びたい」と話した。



高校生と地域をつなぐ

高校魅力化コーディネーター 森下 真穂さん (平28文)

森下真穂さん(平28文)は島根県大田市で学校と地域をつなぐ「高校魅力化コーディネーター」として活躍している。 小峰直史ゼミでワークショップなどを学んだ。教育関係のイベントでコーディネーターの役割を知り、教員とは違う立場で学びを作っていくことに魅了された。卒業後、全く縁のなかった島根県に。

大田高校のコーディネーターに就任して5年目。学校のランドデザイン作り、生徒や教員とのワーク

「島根」に魅せられて……



「観光地以外の魅力、住んでいる人の良さをもっと伝えたい。ぜひ」となるのしまねをフォローしてほしい」と笑顔で語る藤田さん。オンラインによって生まれた距離を超えたり、さらに強くしようと奮闘の日々は続く。